

公益財団法人 日本財団 御中

一般社団法人 御代田の根  
2022年度 運営事業 活動報告書

2023.4.13

## ●はじめに

御代田の根は、2021年度 コミュニティモデル型の子ども第三の居場所事業の助成を受け、子どもと大人が一緒になって身近に触れられる自然を感じ、自然の恵みを暮らしに役立てながら生きることが持続可能なコミュニティにつながるの考えを中心に据えて「みよたの広場」の開設・運営事業を進めてきた。

誰かの手によって完成され、提供される広場ではなく、かかわる人たちでつくり続け、改善しながら使っていく広場にすることを念頭に置き、次の3点を掲げて場づくりを行なっている。

- 広場が子どもも大人も過ごせる居場所となること
- よい循環を生み出す拠点となること
- 新たな関係を結びなおす場となること

本活動報告書では、上記3点の達成のために日々の運営で実施してきたこと、またワークショップなどのイベントで実施してきた内容とここまでの成果を報告する。

## ●活動実績

### ①子ども第三の居場所拠点「みよたの広場」の運営

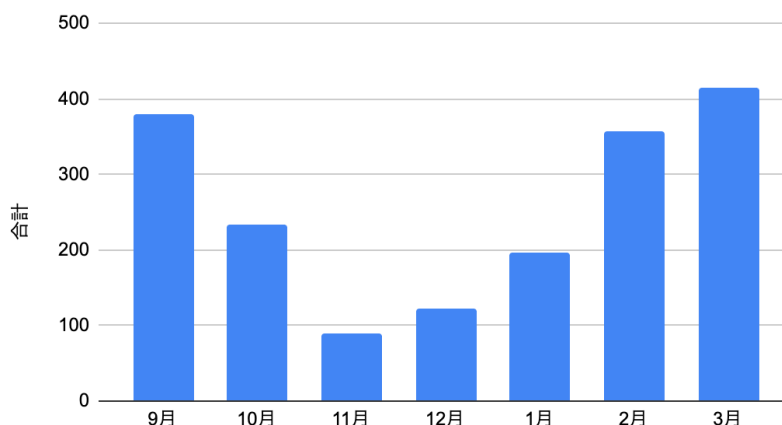
広場の利用人数の合計と平均は以下の表の通りで、7ヶ月の間に約1800名の方々に利用いただくことができた(児童数だけでなく平日/週末の親御さんの数もカウント)

|    | 9月   | 10月  | 11月 | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | Total |
|----|------|------|-----|------|------|------|------|-------|
| 合計 | 380  | 234  | 89  | 122  | 196  | 358  | 415  | 1794  |
| 平均 | 15.8 | 11.7 | 8.9 | 10.2 | 24.5 | 17.9 | 23.1 | 16.0  |

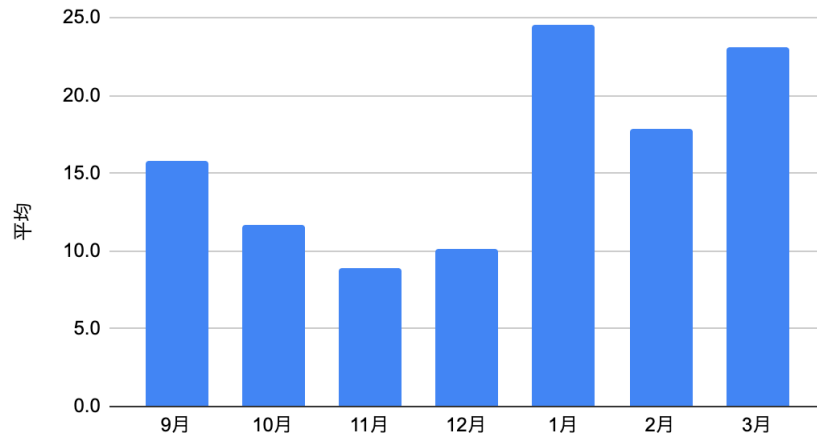
月毎の利用人数合計を見ると、寒さと共に利用人数が減り、暖かくなるにつれて利用者が増えていることがわかる。屋外中心の施設のため、冬場の寒さ対策が継続的な利用をしてもらうために重要な要素となっていることがデータからも読み取れる。

続いて、月毎の1日あたりの利用人数平均を見ると、大まかには冬場になるにつれて利用者が減っていく傾向は合計人数と似た傾向になっている。1月は、スタッフ滞在日を水曜+土日限定したため、平均人数が多苦なつと考えられる(冬場でも週末利用が多いことを示している)まだ寒さの厳しい2月、3月でも昨年9月よりは平均利用人数が増えており、広場の認知度の向上、常連利用者の定着などが大きな要素になっていると考えられる。

月毎の利用人数合計



月毎の1日あたりの利用人数 平均



(参考)月別の利用人数 年齢別データ

月別の利用人数合計

|     | 児童数   |    |    |    |    |    |    |       |       | 大人  |     |     |     |       |     | 合計 |
|-----|-------|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|----|
|     | 小学生未満 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 中学生以上 | 20代以下 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |     |    |
| 9月  | 74    | 32 | 10 | 3  | 33 | 41 | 2  | 2     | 1     | 55  | 71  | 10  | 29  | 17    | 380 |    |
| 10月 | 41    | 21 | 4  | 10 | 14 | 39 | 0  | 8     | 12    | 31  | 43  | 3   | 5   | 3     | 234 |    |
| 11月 | 16    | 4  | 5  | 0  | 0  | 10 | 4  | 6     | 4     | 19  | 14  | 2   | 2   | 3     | 89  |    |
| 12月 | 16    | 17 | 3  | 2  | 0  | 13 | 0  | 15    | 4     | 27  | 17  | 2   | 6   | 0     | 122 |    |
| 1月  | 35    | 14 | 13 | 7  | 5  | 23 | 3  | 15    | 5     | 31  | 34  | 8   | 3   | 0     | 196 |    |
| 2月  | 76    | 34 | 11 | 5  | 25 | 19 | 1  | 13    | 20    | 81  | 48  | 3   | 15  | 7     | 358 |    |
| 3月  | 119   | 29 | 14 | 10 | 47 | 20 | 0  | 3     | 23    | 60  | 69  | 16  | 4   | 1     | 415 |    |

月別の利用人数平均

|     | 児童数   |     |     |     |     |     |     |       |       | 大人  |     |     |     |       |      | 合計 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|------|----|
|     | 小学生未満 | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 5年  | 6年  | 中学生以上 | 20代以下 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |      |    |
| 9月  | 3.1   | 1.3 | 0.4 | 0.1 | 1.4 | 1.7 | 0.1 | 0.1   | 0.0   | 2.3 | 3.0 | 0.4 | 1.2 | 0.7   | 15.8 |    |
| 10月 | 2.1   | 1.1 | 0.2 | 0.5 | 0.7 | 2.0 | 0.0 | 0.4   | 0.6   | 1.6 | 2.2 | 0.2 | 0.3 | 0.2   | 11.7 |    |
| 11月 | 1.6   | 0.4 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.4 | 0.6   | 0.4   | 1.9 | 1.4 | 0.2 | 0.2 | 0.3   | 8.9  |    |
| 12月 | 1.3   | 1.4 | 0.3 | 0.2 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 1.3   | 0.3   | 2.3 | 1.4 | 0.2 | 0.5 | 0.0   | 10.2 |    |
| 1月  | 4.4   | 1.8 | 1.6 | 0.9 | 0.6 | 2.9 | 0.4 | 1.9   | 0.6   | 3.9 | 4.3 | 1.0 | 0.4 | 0.0   | 24.5 |    |
| 2月  | 3.8   | 1.7 | 0.6 | 0.3 | 1.3 | 1.0 | 0.1 | 0.7   | 1.0   | 4.1 | 2.4 | 0.2 | 0.8 | 0.4   | 17.9 |    |
| 3月  | 6.6   | 1.6 | 0.8 | 0.6 | 2.6 | 1.1 | 0.0 | 0.2   | 1.3   | 3.3 | 3.8 | 0.9 | 0.2 | 0.1   | 23.1 |    |

②地域住民を巻き込むワークショップの実施

毎月実施したイベントの概要と所感、当日の様子がわかる写真は別途添付のpdfファイル「2022年度\_みよたの広場\_イベント活動記録.pdf」を参照のこと

## ●広場を通じて起こっている変化

### ①はじめての人も参加しやすいイベントをきっかけに、広場の認知を高められた

土木作業やオープンディナー、広場で焼きたいものを持ち寄ってランチをする日など、カジュアルに子どもも大人も誰でも参加しやすいイベントを企画することで、少しずつではあるが、子育て世代や近隣住民の方々に広場を認知してもらうことができるようになってきた。

### ②広場を知ってくれる方々が増えることで、様々な企画が広場に持ち込まれるようになり、子どもの経験の機会が広がっている

広場の存在とやろうとしていることを多くの人に知ってもらうことができたおかげで、徐々に利用者の方々からの持ち込み企画が増えてきた。子供たち向けのパン焼き教室や、小さなお子様向けの読み聞かせ、ブッシュクラフトワークショップなど子どもたちの多様な経験の機会を提供しやすくなった。

### ③広場で日常的に遊ぶ子どもたちが増え、子供にとっての居場所になりつつある。地域関係機関との連携も始まった

家で両親との関係がうまくいっていないタイミングで広場にやってきてスタッフと話す時間を持つ、学校にはいきたくないが広場にはいきたいので家から外に出る機会が生まれているなど、ある子どもたちにとっては広場が自分の居場所となっている事例がいくつか見られるようになった。これらのケースをきっかけに、地域の教育機関やスクールカウンセラーとの連携が生まれ、定期的な情報交換の機会を持つようになった。スクールカウンセラー経由で、課題を抱える子どものサポートを依頼されるなど、地域の子どもを支える一つの拠点となりつつある。

## ●総括

徐々にではあるが、小学生や子育て世代の親御さんを中心として地域の方々が集まる場になっている手応えを得られた1年だった。広場に集まった方々の横のつながりも生まれはじめ、地域コミュニティとしての機能も担えるようになってきている。前回の報告時点では課題となっていた課題を抱える子どもたちの居場所になれている実績もちらほら生まれ始め、教育委員会や社協などとのつながりによる子供達のサポート体制を構築でき始めたのは大きなアップデートと言える。

一方、2025年3月の運営自走に向けての住民の巻き込みやファイナンスの仕組み構築が思うように進んでいない点が課題となっている。残り2年間のうちに、運営が自走できるよう23年度初期から運営体制を大幅に改善していく。